



長野県におけるアカモズの生息状況調査



松宮裕秋（信州大学）・原星一

はじめに

アカモズ *Lanius cristatus* は東アジアで繁殖する夏鳥で、日本では亜種アカモズ *L. c. superciliosus* が繁殖します。この亜種アカモズは繁殖地がほぼ日本に限られる鳥でありながら、近年における個体数の減少が著しく、現在は北海道と本州の一部にわずかに生息するのみとなりました。環境省および長野県のレッドリストでは絶滅危惧 B 類に選定されています。



果樹園に生息するアカモズ

かつては長野県でも数多く生息していましたが、そのほとんどの場所で姿を消してしまいました。一方で最近になり一部地域の果樹園に生息していることが確認されました。2015～2017年には複数の地域で生息状況調査を行いました。しかし、この調査は県全域をカバーしたのではなく、また果樹園における個体数が増加しているのか減少しているのかは分かっていません。本調査ではこれまで調査の行われていなかった地域で調査を行い**長野県全体でのアカモズの生息数を把握**すると同時に、既に生息が確認されている地域においても引き続き調査を行い、**個体数の変動をモニタリング**することを目的とします。

調査地

長野県全域の果樹園
(特にリンゴの果樹園)

期間

2018年5～7月



アカモズの生息する果樹園

調査方法

土地利用図や航空写真を基にアカモズが生息している可能性のある果樹園に調査ルートを設定し、徒歩または車によるセンサスを行う。精度を高めるため、一つのルートにつき数回行う。生息が確認された場合は、地点と個体数、性齢、行動、日時を記録する。

展望

これまでの観察でアカモズは幹の太い果樹で営巣し、支柱などにとまって餌を探し、果樹園の地面で餌を捕ることが分かっています。果樹園は人間の生産活動の場であり、そこを利用する野生動物との間に軋轢が生まれることがあります。しかし、現在のところアカモズによる果樹生産への悪影響は確認されていません。また生産者も特にアカモズに配慮した栽培・管理を行っているわけではありません。このことは、生産性を損なうことなく絶滅危惧種であるアカモズの生息環境を維持できることを意味します。一方で近年導入が進んでいる新たな栽培方法では、これまでより細い果樹を使用するため、果樹園が営巣に適した場所ではなくなり、さらなる個体数の減少を招く恐れもあります。この調査で得られる地域による生息数の差や増減のデータは、アカモズの生息に適した栽培・管理方法の解明や、生息地の保全に活用したいと考えております。

支援金の使い道は調査に必要な交通費、燃料費、機材購入費、資料印刷費などを予定しています。

調査は長野県環境保全研究所の堀田昌伸氏の協力のもと行います。

ここ数年、長野県内のアカモズの生息状況を調査してきました。一部地域での生息状況は明らかになってきたものの、費用的にも厳しく県全域の調査は実施できていないのが現状です。2018年は少しでも調査地域を増やしていければと思っております。また、本調査で得られたデータが農業と鳥類の保全を両立する手立てとなればと考えております。ご支援、何卒よろしく願いいたします。